

Question

おもな症状は？

Answer

関節の痛み、こわばり。少しの症状でも疑って

炎症は関節を包む滑膜から始まり、やがて軟骨や骨に進み、関節を破壊します。進み方は人それぞれですが、発症から数か月で急速に進行する場合もあります。放置していると関節が変形し、日常生活に支障を来す事態にも。場合によっては腎臓や肝臓などに、内臓障害を起こします。

おもな自覚症状は、関節のこわばりや痛み・腫れなど。多くは手の指の第二関節や手首に出ることが多く、関節リウマチの95%に手の症状が見られます。右半身と左半身、左右対

称に出やすいことも特徴です。必ずしも最初から手の症状が現れるわけではなく、肘や膝などさまざまな部位に現れたり、同時に数か所の関節で発症する場合もあります。

2009年に米国／欧州リウマチ学会から新しい診断基準が発表され、どこか1つの関節でも原因不明の腫れがあったら、検査を受けることが勧められています。原因が思い当たらないのに関節の痛みが消えない、朝、関節のこわばりが30分以上続くという場合は、一度、リウマチの専門医療機関を受診するといいでしよう。その際は、関節リウマチが膠原病の一種であること、内臓障害も合併しやすいことを考慮し、内科も得意とするリウマチ専門医を受診することが勧められます。

医療機関での早期診断の新基準

下記のそれぞれの点数を合計し、6点以上の場合に関節リウマチと診断される

腫れ・痛みのある関節の数

- | | |
|--|----|
| <input type="checkbox"/> 中・大関節(肩、肘、股、膝、くるぶしの関節)に1つ以上の腫脹または疼痛関節あり | 0点 |
| <input type="checkbox"/> 中・大関節に2～10個の腫脹または疼痛関節あり | 1点 |
| <input type="checkbox"/> 小関節(手足の指、趾の関節、手首の関節)に1～3個の腫脹または疼痛関節あり | 2点 |
| <input type="checkbox"/> 小関節に4～10個の腫脹または疼痛関節あり | 3点 |
| <input type="checkbox"/> 少なくとも1つ以上の小関節領域(小関節やほかの関節を含む)に10個を超える腫脹、または疼痛関節あり | 5点 |
- ※指の第一関節は対象としないこと

免疫の異常

- | | |
|---|----|
| <input type="checkbox"/> リウマトイド因子(関節リウマチの因子の一種)、抗CCP抗体ともに陰性 | 0点 |
| <input type="checkbox"/> リウマトイド因子、抗CCP抗体の少なくとも1つが陽性・低力価(正常値上限の1～3倍) | 2点 |
| <input type="checkbox"/> リウマトイド因子、抗CCP抗体の少なくとも1つが陽性・高力価(正常上限値の3倍以上) | 2点 |

症状の持続期間

- | | |
|--------------------------------|----|
| <input type="checkbox"/> 6週間未満 | 0点 |
| <input type="checkbox"/> 6週間以上 | 1点 |

炎症反応

- | | |
|--|----|
| <input type="checkbox"/> CRP、ESR(血沈速度。炎症があると増加)ともに正常 | 0点 |
| <input type="checkbox"/> CRP、ESRのいずれかが異常 | 1点 |

炎症を未然に防ぐことができれば、生活に支障を来さずに生活することも可能です。しかし、軟骨や骨に炎症が及び、破壊されてしまうと、元の状態に戻すことはできません。残った機能をいかに温存するかという点からの治療になります。早期受診がいかに大切かということがわかるのではないでしょう。

Question

治療の目的は？

Answer

早く進行を止め、健康的な生活をめざす

医療機関では、症状やその出かたなどをくわしく問診し、採血やX線写真撮影を行います。血液検査では抗CCP抗体という関節リウマチに特有の因子や、CRPという炎症の程度がわかる因子などを調べます。抗CCP抗体が高い値だと、現在発症していても数年のうちに発症する危険性があると予測でき、また、CRPが高い値だと進行しやすいと予測できるのです。画像検査からは関節の変形などの様子が確認できます。これらの結果から総合的に判断

し、関節リウマチの診断をつけ、同時に炎症や病気の活動性(進行の速さ)の程度を把握します。

目的は少しでも早く発見し、治療を開始すること。というのも近年、日本でも新しいタイプの関節リウマチ薬が登場し、治療が大きく変わりました。これまで関節リウマチは治らない病気とされてきましたが、早期に治療を開始することで寛解(症状がなくなり治ったようにみえる状態)をめざすことや、進行したりリウマチでも日常生活を楽に過ごせるよう、症状を安定させることが可能になったのです。

ただし、一度破壊されてしまった軟骨や骨を元に戻すことはできません。だからこそ、早期発見・早期治療が大切なのです。